



京都 YWCA

9 2016

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

連続公開講座「いのちを考える」 大切な人の旅立ちの瞬間に、 そして私の逝く時を想い



2009年に京都YWCAで行った「エンディングセミナー」から7年余り、6月から初夏の7月にかけて「いのちを考える～どう逝き、どう生きるか、そしてどう看取るのか～」の3回連続講座を生涯教育事業部主催で開催しました。

1回目は、尊厳ある死と葬送の実現を目指す市民団体「認定NPO法人エンディングセンター」の理事長であり、東洋大学東洋学研究所客員研究員の井上治代さんをお招きしました。2010年の国勢調査では、なんと「一人世帯」が世帯数1位になったという現代の日本社会。先行モデルなき時代だからこそ、市民が自主的に学び、選択し、そして書き記す必要があるとの言葉に深く納得しました。また、近年の「自然志向」の散骨や樹木葬、継承者を必要としない「脱継承」のお墓の特徴や、増加している直葬、家族葬など、葬送の儀礼自体も大きく変化してきたことについての解説をいただきました。そして、死生観なき時代にこそ、「死をも超えた将来を見出し、他者との関係性の回復をはかり、身体に依存しない自己の覚知（自己決定と自律の回復）」をめざす「スピリチュアル・ケア」が必要だと力説されました。



最期の時をどう見送るのか、宗教者お二人からの言葉の力

2回目の講座では、上智大学グリーフケア研究所主任研究員でビハーラ僧（キリスト教のホスピスでのチャプレンに相当する臨床仏教僧）でもある大河内大博さんにお越しい頂き、「自分らしく生ききるために～仏教的スピリチュアル・ケアの視点から～」という内容でお話しいただきました。冒頭に「医学はサイエンスに基盤をおくアート（技）である」というウィリアム・オスラーの言葉を元に、日野原重明先生の「医療者の行うアートとは、医学知識や検査データ、そして近代医療を統合した上で病人にタッチして癒やすパフォーマンス」という言葉を紹介くださいました。そして、自分の「死」に向けての「マップ」（何が起きているかを知り、どうなりたいのかを描き、アートの中から必要なものを選択すること）を思い描くことが重要であることを示されました。

連続講座の締めくくりである3回目の講座には、近江八幡にあるヴォーリズ記念病院礼拝堂のチャプレンの安部勉さんにお話を伺いました。ホスピスでこれまでに看取ってこられた中で得られた智慧や経験を、神様との関係を通じて、どのように感じるのか、そして伝えていくのかを牧師としての言葉で示してくださいました。安部さんは「(死に逝く) 本人の価値観の変容や苦悩の変化につながることを期待しながら(=祈りながら) 寄り添い続けること」がスピリチュアル・ケアであると話され、仏教者である大河内さんと同様に、キリスト者として、看取る側の死生観と、そこに信仰がある意味とを深く考えさせてくれました。安部さんが語られた「愛するものの旅立ちは、新しい『いのちのはじまり』なのだ」という言葉に、ホール内は静かな涙が溢れるひとときとなりました。

(齋藤佳津子)

国際委員会主催「多文化理解プログラム」ー イスラムにふれよう②

アフガニスタン出身 イーダック・モハド・レザさんのお話

イスラム教は国によってその姿は様々です。生まれてからずっと戦争の中で生きているというレザさんは、アフガニスタンでのご自身の身近な話題から原理主義まで、写真や映像を使って丁寧に話してくださいました。

レザさんはまず、アフガニスタンの問題は「民族、宗教、言語」のどれなのでしょう、と問いかけられました。

アフガニスタンには15の民族、7つの言語があり、違う民族や言語、グループが混ざることはあまりないそうです。国民の約98パーセントがイスラム教徒で、人口約350万人のうち約50万人が内戦のためイランやパキスタンなどで難民生活を送っています。

イスラム教はシーア派とスンニ派のふたつで、その中にもたくさんのグループがあり、グループが変わると考え方やお祈りのしかたも全然違います。しかし近年、色々なグループのうち、サラフィやタリバンという小さいグループがいつもメディアに出ています。大多数のイスラム教徒達はこれらのグループの考え方について、これらはもはやイスラムではないと信じているとのこと。

イスラム教はひとつではない、結局は「人」が問題

レザさんは、結局は「人」が問題なのであって「宗教」が問題なのではないのだと言います。宗教は宗教であり、人が良ければその人の宗教も良く、人が悪ければその人の宗教も悪くなってしまふ、そのためには教育が欠かせないというのがレザさんの考えです。また、イスラム教はひとつではなく、国やグループが変わればイスラムも違うということを何度も繰り返しておられました。

平和から戦争に変わるのはいすぐですが、戦争から平和になるのは、本当に難しいのです。アフガニスタンはかつてとても平和で美しい国だったのに、未だ混乱の中にあります。日本人は、今ある平和を守るために努力しなければならないとレザさんは警鐘を鳴らします。

当然のように感じていた「国家が平和であること」をこれからも守り続けるため、平和を維持する方法について改めて考え直すきっかけとなりました。

(久保真希子)



話をされるレザさん

シリーズ 若者からの発信 ②

シリーズ「若者からの発信」第2回目は、大学院で学ぶために京都での生活を始めて以降、京都YWCA会員として様々な活動に関わっている伊原千晶さんです。

「今」を生きる「若者」の選択 ～「ふつう」でいられない社会の中で

私は4月から京都を離れ、自身の生まれた街である四国・徳島に暮らしています。この原稿を書いている今は、「阿波踊り」を目前に、街の至るところで「連」と呼ばれる踊りのグループが練習する音楽が聞こえる、徳島が最も魅力に溢れる季節です。

大好きな京都を離れた理由には様々なことがありますし、自分自身には見えていない、言語化できていない理由もあるでしょう。そしてその「選択」に、道しるべのない道をひとりで進むような漠然とした不安がつきまとっていったことも確かです。それは自分の人生を自分で切り拓いていくというような明るい「自由」というものよりも、「これからも、自分で自分の暮らしを成り立たせていくためにはどんな仕事をすればよいのだろう」とか、「自分は、社会でどのような役割が果たせるのだろうか？」などという強迫観念にも似た思いです。

このような悩みは、いつの時代を生きる「若者」にも共通なものかもしれません。しかし今の社会は、若者に優し

くないことも事実です。様々な困難から他者と関わることを避けてひきこもる若者、就職活動が激化する中で競争に勝ち残れなかった自分を「価値がない」と感じ、自死まで追い込まれてしまう若者、暮らしの厳しさから思う存分学ぶことができない若者…これらは特徴的な一部の若者像かもしれませんが、学校を卒業し、就職して、結婚——という「ふつう」の選択をできる人が少なくなっているにもかかわらず、社会全体でその「ふつう」は崩れず、競争が激化しすぎていることは多くの若者が感じていて、一度ルールを外れると、戻るとはとても難しいのです。

社会の転換期を迎え社会全体が不安定な中、若者が排除されない社会を目指すことは、代わりに他の世代を排除することではなく、誰もが生きやすい社会を実現することだと思います。YWCAに関わる人はもちろん、多くの人に若者の今を知っていただけたらと思っています。

(伊原千晶)

京都 YWCA 「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」 報告書を発行しました！

京都 YWCA では現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」を推進しています。この事業は「女性高齢者に住まいと社会参加の機会を提供する多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」として 2013 年度の国土交通省の先導的的事业に選ばれました。「出会いを紡ぐ」とタイトルをつけて 7 月に発行したこの冊子は、「ふれあいコミュニティづくり」に向けた 2014 年度と 2015 年度の 2 年間の活動を報告し、その成果と課題を検証したものです。

報告書では、事業に至る背景として、京都 YWCA の歴史や組織の特徴や、老朽化した建物の大規模改修の実現のために模索した過程にも触れています。京都 YWCA の理念に沿いつつ、その資源を活かす事業として、どのようにして 3 つの新事業（高齢者住宅サラーム、ふれあいの居場所食堂うららかふえ、自立援助ホーム カラーナ）の開始に至ったかも伝えています。

また、高齢者住宅サラームの居住者はもとより、京都 YWCA で活動するさまざまなグループや人々がどのように交錯し、協働したかを報告しています。さらに、京都 YWCA のような医療や福祉を専門としない市民組織が、その経験や

ネットワークを活かして高齢化が進む社会にいかに関与できるかについて提言しています。

地域社会に寄与したいと願う市民組織や人々にとって、この報告書が何らかの参考になるものであることを願っています。冊子は、カラー写真を入れるなどして、読者の皆さまに活動を具体的に知っていただけるようにしました。ご一読いただければ幸いです。

また、京都 YWCA の活動を短くまとめた、クリエイター「シンセキ」製作の動画もホームページ (kyoto.ywca.or.jp) から見ていただけます。是非こちらもご覧ください。

(上村愈巳子)



報告書の表紙

映画「日本と原発 4 年後」上映会



「日本と原発 4 年後」の上映会を、7 月 18 日の午前と午後の 2 回、YWCA のホールにおいて平和委員会の主催で開きました。多くの方が足を運んでくださいました。

原発に関わる様々な問題を解き明かしてくれる内容なので、原発に関心がない方、忘れてしまった方、原発推進の方にも是非観ていただきたい映画です。原発は、経済の問題、雇用の問題、被曝の問題のどれをとっても弱者への配慮がない、もっと強きうと差別の問題だと思えます。子どもの甲状腺がんが発症していることだけをとりもって犯罪です。見えない放射能、見えにくい社会のしくみに、黙ってはられないと思えます。心の中で「見えぬけれどもあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ」と、金子みすゞの詩がこたえました。

上映後、福島からの避難者の方が「関心をもってたくさん集まってくださっていることに感謝します」と話されました。一番弱い立場の方が、思いやる心を伝えてくださいました。

(松田千治)



上映後にアピールされる避難者の方

中国の YWCA から、 ゲストをお迎えしました！

8 月 8 日(月)、中国 YWCA、上海 YWCA、廣州 YWCA でそれぞれスタッフをされているドーさん、ワンさん、ウェンさんを京都 YWCA にゲストとしてお迎えしました。3 人は、日本 YWCA 主催の「ひろしまを考える旅」に参加するために広島へと向かう前に、観光もかねて京都に立ち寄られ京都 YWCA まで足を運んでくださったのでした。

京都 YWCA のスタッフが会館案内と活動紹介をし、「うららかふえ」ボランティアが調理したランチと一緒に食べていただきました。「京都 YWCA はとてもアットホームなところですね」という感想をいただきました。

ランチを囲みながら、「未来は若者たちのもの。お互いの国の若い人たちが YWCA を通じて出会い、交流することで、平和な世界を創るきっかけにしたい」と話していらっしゃいました。近い将来、その言葉通りに若者の交流を現実のものにしたいと思えます。

(編集部)



今後のプログラム

◎多文化・多世代の共生を実践する場所
京都コリアン生活センター「エルファ」へ行こう！

- 日 時：2016年9月19日（月・休）
京都YWCAに9：30集合（現地集合の方は10：25）12：30終了、現地解散予定
- 対 象：子どもと関わるボランティアに興味のある方、すでに活動されている方
- 参加費：500円（YWCAに集合される方、交通費込み）
- 訪問先：京都コリアン生活センター「エルファ」
- 定 員：20名 ※先着申し込み順
- 申込み：要
- 主 催：京都YWCA ガジュマルの樹運営委員会

◎大人のための修学旅行
「2016年秋、いましか出会えない！
狩野派と千住博の共演を大徳寺に訪ねる旅」

- 日 時：2016年9月25日（日）
集合：10：00 京都YWCA（ミニレクチャーあり）
解散：16：00 頃大徳寺周辺

- 参加費：7,000円（会員割引6,500円）
※特別拝観料2,800円、昼食代（泉仙の精進料理）など含む
- 申込み：要、先着20名
- 主 催：京都YWCA 生涯教育事業部

◎アーサー・ビナードさん講演会
「絵本の向こうに日本が見える」

- 日 時：2016年10月9日（日）10：30～12：30
- 場 所：京都YWCA
- 参加費：1,000円
- 保 育：有（300円/人）要申込
- 申込み：要
- 主 催：京都YWCA 親・子育て支援活動委員会



ご寄付ありがとうございました。

2016年6月1日から7月31日
寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

上村愈巳子、山本知恵、井上依子

各指定寄付

- *多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業に
むけた改修募金
上村愈巳子、弘中奈都子、宮武美知子、井上依子
- *福島プロジェクト
匿名1名、あじさいバザール実行委員会
- *親・子育て支援活動委員会
京都子ども文庫連絡会、親子ライブラリー有志
- *APT
清水弥生、森田園子、石井ゆき、林律、織田雪江、永井靖二、
大津恵子、大西澄子、神門佐千子、西原美那子、嶋川まき子、
安藤いづみ
- *国際委員会
宮武美知子

*平和委員会

北垣景子、平和委員会有志、円城順子（ブクラへ）

*会員・ボランティア活動推進委員会

篠田茜

*うららかふえ運営委員会

宮武美知子、小寺敬子

*自立援助ホーム「カルーナ」（寄付、後援会費）

山上義人、小寺敬子、大手理絵、西文字子、牧野哲治、上村愈巳子、
篠田茜、眞下正己、桑村祐子、弘中奈都子、中野加奈子、
安藤いづみ、御前明美、
應典院、平安女学院中学校、高等学校、匿名3名

*自立援助ホーム「カルーナ」教育奨励金

佐野千枝子、手島千景、神門佐千子、福嶋節子、篠田茜、北垣景子、
安藤いづみ、御前明美、神門佐千子、有田孝子、井上依子、
匿名1名

*賛助費

岡昭男、福嶋節子、野崎泰子、寺田弘、安部陽子

7・8月／理事会報告

- 定期評議員会を開催し、次期評議員、理事、監事を選定した（6月）。
- 自立援助ホーム カルーナ：新しい利用者が6月より加わり利用者は5名となる。
同志社大学より学習支援のインターン生受入れ。
- 高齢者住宅サラーム：夏の交流会「シネマカフェ」（映画上映とカフェ）実施（7/30）。
- 福島プロジェクト：福島の外国にルーツのある小中学生対象リフレッシュプログラム実施（8/4-8）。
- 日韓ユースプロジェクト：忠州YWCA訪問プログラム実施（8/10-13）。
- ガジュマルの樹：小学生のための夏休みキッズダイアアウト実施（8/17-20、8/22）。
- 会員制度、次世代担い手育成等について話し合う合宿実施（8/27-28）。

KYOTO YWCA No.534

2016年9月号（9月1日発行）

発行人 上村愈巳子
発行所 公益財団法人京都YWCA
京都市上京区室町通水上ル
電 話 (075)431-0351 FAX (075)431-0352
e-mail office@kyoto.ywca.or.jp
U R L http://kyoto.ywca.or.jp
郵便振替 01080-9-1566
口座名義 (公財)京都YWCA
定 価 50円